

目次・使い方	はじめに	CEOメッセージ	日産のCSR戦略	日産のCSRマネジメント	ルノーと日産のアライアンス	CSRデータ集	第三者保証
環境	安全	社会貢献	品質	バリューチェーン	従業員	経済的貢献	コーポレートガバナンス・内部統制

バリューチェーン

現代を生きる私たちは、地球温暖化やエネルギー問題など、逼迫する社会問題をグローバルに共有しています。日産がこれらの問題に対処していくためにはバリューチェーンのさまざまなステージで直面している課題を把握し、それぞれについて努力を重ねていくことが不可欠です。日産は、グローバル企業のひとつとしてさまざまな国でビジネスを展開しており、バリューチェーンも全世界に広がっています。一貫性のある調達慣行をグローバルに推進するなど、日産のビジョンや方針をビジネスパートナーと共有し、その達成のために協働しています。

日産が目指しているのは、ビジネスパートナーとの信頼を基本にした、お互いの持続的な成長です。常に対等な立場でサプライヤーや販売会社の意見に耳を傾け、切磋琢磨し合いながらベストプラクティスを導き出す協力関係の維持・強化に努めています。

取り組みの柱

「ルノー・日産サプライヤーCSRガイドライン」の配布率

100%

目次・使い方	はじめに	CEOメッセージ	日産のCSR戦略	日産のCSRマネジメント	ルノーと日産のアライアンス	CSRデータ集	第三者保証
環境	安全	社会貢献	品質	バリューチェーン	従業員	経済的貢献	コーポレートガバナンス・内部統制

バリューチェーン

CSRスコアカード

2016年度目標に対する達成度 ✓✓:達成 ✓:ほぼ達成 ×:未達成

年間を通じたCSR推進の管理ツールとして「CSRスコアカード」を作成して、「サステナビリティ戦略」ごとの活動の進捗状況を確認し、レビューを行っています。ここでは「CSRスコアカード」のうち、日産が現在実行している事業活動の価値観や管理指標についてご紹介します。

取り組みの柱	目標と長期ビジョン	進捗確認指標	2016年度実績	評価	
サプライヤーとの取り組み	サプライチェーンでの法令順守に基づく適正取引の周知・徹底を継続して推進する	サプライチェーンにCSRを浸透させ、特に法令順守の周知徹底を推進する	第三者機関が行うCSR評価により、サプライヤーのCSR活動のレベルアップを進める	● ルノーと共同で、第三者機関によるサプライヤーCSR評価を実施(欧米・日本)	✓✓
		サプライチェーンへのCSR浸透を狙いとした紛争鉱物調査を実施する	紛争鉱物調査の実施状況	● 前年調査の結果、継続調査が必要なサプライヤーを対象に調査を実施	✓✓
	サプライチェーン全体での環境負荷低減のマネジメントを推進する	環境負荷規制対応のため、サプライヤーと規制/禁止物質管理を推進する	「ニッサン・グリーン調達ガイドライン」の展開状況と、具体的な物質管理実施状況	● 化学物質管理の技術標準をルノーと統合し、「ニッサン・グリーン調達ガイドライン」改定版を配布し、対応を依頼	✓✓
		サプライヤー環境調査(CO ₂ ・水・廃棄物の排出)をもとに、サプライチェーンでの環境負荷低減を推進する	全購買額の70%以上のサプライヤーに対する調査の実施状況	● CDPサプライチェーンプログラムに継続参加して実績を把握し、フォロー活動を継続	✓✓
販売会社との取り組み	販売会社の自主的な取り組み定着に向けた支援を行う	販売会社におけるCSR活動の推進においてPDCAを回しながら改善を推進する	コンプライアンス自己点検プログラムの実施状況	● コンプライアンス自己点検プログラムを継続して実施し、コンプライアンスに対する意識を向上(年2回実施)	✓✓
			案件発生事例をもとにした改善方策の検討	● 代表者会議において、金銭にかかわる不祥事に関する案件の発生事例と、改善方策を展開。適切な勤務管理の実施に向けた要請を実施	✓✓
			案件発生事例をもとにした教育の実施状況と、案件発生の未然防止への取り組み	● 情報漏えいインシデントおよびハラスメントや無謀運転等の未然防止に向け、各種教育資料を各社に展開し、教育を実施	✓✓
			案件発生時の社内での速やかな情報共有・対応を強化するための体制構築に向けた取り組み	● コンプライアンス強化に向け、案件発生時の社内での速やかな情報共有・未然防止策の展開・対応を強化するための体制を継続	✓✓



目次・使い方	はじめに	CEOメッセージ	日産のCSR戦略	日産のCSRマネジメント	ルノーと日産のアライアンス	CSRデータ集	第三者保証
環境	安全	社会貢献	品質	バリューチェーン	従業員	経済的貢献	コーポレートガバナンス・内部統制

バリューチェーンへの取り組み

ルノー・日産はアライアンスによる効率的な購買活動を推進するため、共同購買会社であるRNPO (Renault-Nissan Purchasing Organization)を2001年に設立し、順次購買領域を拡大してきました。現在はすべての購買領域をカバーするとともに、すべての購買機能をRNPOに集約し、日産と全サプライヤー双方に有益となるビジネスパートナーシップを構築しています。

サプライヤーの選定にあたっては、グローバルに統一した明確なプロセスと基準を導入し、国籍、企業規模、取引実績の有無にかかわらず、広く参入機会を提供しています。

選定に際してはすべての関係部門が参加する会議体を持ち、サプライヤーからの提案を横断的に検討します。また、選定結果は参加したすべてのサプライヤーに必ず説明し、公平・公正で透明性のある運用を徹底しています。

サプライヤーとの取引では、アライアンスが大切にすべき価値として、「信頼(公平に、プロ意識を持って)」「相手への敬意(約束、義務、責任を果たし)」「透明性(オープンに、率直に、明快に)」を定めています。このアライアンスが大切にしている価値やプロセスを「The Renault-Nissan Purchasing Way」* という小冊子にまとめ、2006年からルノー・日産のサプライヤーと共有しています。

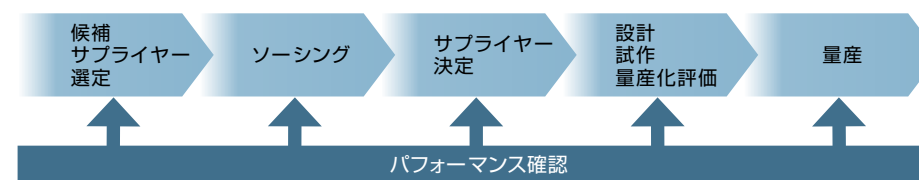
日本では、「自動車産業適正取引ガイドライン」(経済産業省発行)にも則した取引を実践しています。

推進体制

ルノー・日産アライアンスによる共同購買組織(RNPO)



サプライヤー選定から量産までのプロセス



▶ website

▶ 「The Renault-Nissan Purchasing Way」は、ウェブサイトからダウンロードできます

目次・使い方	はじめに	CEOメッセージ	日産のCSR戦略	日産のCSRマネジメント	ルノーと日産のアライアンス	CSRデータ集	第三者保証
環境	安全	社会貢献	品質	バリューチェーン	従業員	経済的貢献	コーポレートガバナンス・内部統制

サプライヤーとの取り組み

持続可能なサプライチェーンの構築に向けて、日産はグローバルに広がるサプライチェーンのあらゆる段階において、倫理・社会・環境に配慮したビジネスの遂行を目指しています。取引しているすべてのサプライヤーについて、工場別の所在地や購入額といった基本的な項目をデータベースとして管理・把握したうえで、ルノーと共同でまとめた「ルノー・日産サプライヤーCSRガイドライン」と、サプライヤーへの環境活動の具体的な依頼事項をまとめた「ニッサン・グリーン調達ガイドライン」に基づき、すべてのサプライヤーと協働しながらCSRの取り組みを浸透させています。

「ルノー・日産サプライヤーCSRガイドライン」による浸透

世界中のサプライヤーとCSRを実践していくため、2015年12月、日産とルノーは「ルノー・日産サプライヤーCSRガイドライン」[▶](#)を改定し、グローバルに広がるすべてのサプライヤーに配布するとともに、サプライチェーンの隅々までCSRを浸透させるため、各サプライヤーからその取引先へ配布が行き渡るよう徹底しました（初版は2010年に「日本自動車工業会サプライヤーCSRガイドライン」をもとにルノーと日産で作成し展開）。

2015年の改定では、①新しい法令への対応として、責任ある鉱物調達や、政府指針・条例に基づく日本国内の反社会的勢力の排除を調達方針に追加、②サプライヤーとのCSR活動を相互に確認し推進を図るため、本ガイドライン改定版から配布時の合意確認を開始、③第三者機関によるサプライヤーのCSR活動の評価を2016年度からアライアンスで開始することを明示しました。また、新興国の取引先へのCSR周知・普及に向け、今までの英語版、日本語版に加え、中国語版を追加発行しました。

本ガイドラインはサプライヤー各社が企業活動をCSRの視点で見直し、CSRへの取り組みを実践することを目的に、5分野・26項目の期待される事項を説明しています。5分野とは①「コンプライアンス」（法令順守、汚職防止等）、②「安全・品質」（顧客のニーズに応える製品・サービスの提供等）、③「人権・労働」（児童労働・強制労働の禁止、労働時間・賃金の法令順守等）、④「環境」（環境マネジメントの構築・運用、温室効果ガス排出削減等）、⑤「情報開示」（ステークホルダーへのオープンで公正なコミュニケーション等）です。

本ガイドラインでは、サプライヤーへ法令規範の順守を要請し、万が一コンプライアンス違反が発生した際の対応（即時報告、調査結果、改善計画の報告）を明示しています。実際に違反事案が起こった場合は、社内ルールに基づいた厳正な対処を実施し、再発防止の徹底に努めています。

サプライヤーにおけるCSR順守の確認

日産ではサプライヤーでのCSR順守のモニタリングとして、発注先選定時に「ルノー・日産サプライヤーCSRガイドライン」への合意を確認するとともに、サプライヤーの環境負荷マネジメント体制や日産との環境活動への合意についても確認してきました。

2016年からは、ルノー・日産アライアンスで第三者機関によるサプライヤーのCSR活動の評価を開始し、サプライヤーとの相互確認によってCSR活動のレベルアップにつなげています。この評価の結果がアライアンスの基準に満たない場合、改善計画の策定をサプライヤーに依頼し、改善状況のフォローを実施しています。

さらに購買部門内では、各購買担当者が日常業務の中でサプライヤーのCSRへの取り組み状況を確認するよう、CSR教育を実施しています。

▶ website

▶ 「ルノー・日産サプライヤーCSRガイドライン」は、ウェブサイトからダウンロードできます

目次・使い方	はじめに	CEOメッセージ	日産のCSR戦略	日産のCSRマネジメント	ルノーと日産のアライアンス	CSRデータ集	第三者保証
環境	安全	社会貢献	品質	バリューチェーン	従業員	経済的貢献	コーポレートガバナンス・内部統制

万が一サプライヤーからの部品・材料の供給に支障があった場合、その影響は、日産車の生産だけにとどまらず、サプライチェーン全体を含め広範囲に及ぶ可能性があります。そのため、①平時のサプライヤーの供給リスク確認、②サプライヤーのQCDDM実績確認(品質:Quality、コスト:Cost、納品:Delivery、開発:Development、経営:Managementの実績を毎年フォロー)、③サプライヤーとの自然災害などのリスクを想定した生産継続・早期復旧計画策定の取り組み、といった項目もCSR活動の一環として位置づけ、実施しています。

日産は、サプライヤーリスク管理に基づいてCSR順守の確認を促進し、さまざまな項目からサプライヤーの状況を常に把握し、高いリスクが確認された場合は、サプライヤーとともに速やかに対策を立案し改善を図っています。

サプライヤーとの環境活動

日産は、サプライヤーと日産の環境理念・環境行動計画を共有し、サプライチェーン全体の環境改善とともに推進するため、サプライヤーにおける環境活動を「ニッサン・グリーン調達ガイドライン」¹⁾にまとめ、2001年の発行以来、活動を進めてきました。

2016年度に日産とルノーの化学物質管理の技術標準を統合したことを踏まえ、2017年1月に本ガイドラインの改定版^{*}を発行し、サプライヤーへの対応依頼を行いました。

「ニッサン・グリーン調達ガイドライン」は、「ルノー・日産サプライヤーCSRガイドライン」の「環境」項目に関する詳細な説明と位置づけられます。

サプライヤーとの環境活動は、環境法規制・日産環境基準の順守と環境負荷低減活動の2つを柱に取り組んでいます。

環境法規制・日産環境基準の順守に関しては、世界の規制動向²⁾を踏まえ、使用禁止物質を追加し、成分データの管理地域を全世界へと拡大し

ています。また、新車発注時におけるサプライヤーの環境負荷物質管理体制と活動を確保するとともに、欧州REACH規制などに対する具体的な活動をサプライヤーに説明し依頼するなどの活動を進めています。

環境負荷低減活動では、中期環境行動計画「ニッサン・グリーンプログラム 2016(NGP2016)」³⁾に基づき、年1回定期的な環境説明会を実施し、サプライヤーのCO₂排出量や水、廃棄物等の実績把握について調査を行っています。この調査は、2012年度より開始し、2014年度からはさらなる活動強化のため、企業の環境影響や戦略を開示するためのグローバルなシステムを運営している国際環境NPO「CDP」のサプライチェーンプログラムを採用しています。2016年度もCDPと連携し、実績データの精度向上に取り組みました⁴⁾。

ニッサン・グリーン調達ガイドラインの位置づけ



▶▶ page_19

③ 「NGP2016」の詳細を掲載しています

▶▶ page_131

④ サプライチェーンにおける環境データ調査結果を掲載しています

▶▶ website

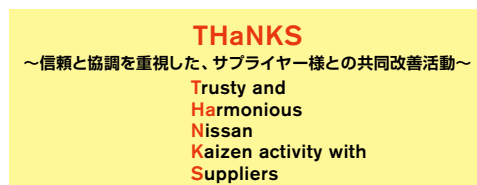
① 「ニッサン・グリーン調達ガイドライン(改定版)」はウェブサイトからダウンロードできます

② 欧州連合(EU)のREACH規制(化学物質の登録・評価・認可・制限に関する規制)やRRR指令(再利用、再生に関する自動車車両型式認可指令)など

目次・使い方	はじめに	CEOメッセージ	日産のCSR戦略	日産のCSRマネジメント	ルノーと日産のアライアンス	CSRデータ集	第三者保証
環境	安全	社会貢献	品質	バリューチェーン	従業員	経済的貢献	コーポレートガバナンス・内部統制

サプライヤーと共同で取り組む「モノづくり活動」の推進

日産では、より競争力のある商品を常に生み出すため、2008年からサプライヤーと日産の連携による「モノづくり活動」を進めてきました。この活動を発展させるため、2009年からはサプライヤーとの信頼と協力を重視した共同改善活動「THaNKS活動」を推進しています。サプライヤーとともに厳しい市場でコストリーダーとなることを目指し、部品当たりの生産量増加、現地化の徹底、物流の改善などを実施しながら、品質向上、コスト低減、製造の合理化などに取り組んでいます。また、エネルギーコスト(電力・ガス等)とCO₂排出量の削減については、「省エネTHaNKS活動」として、日産の内製工場の活動をベースとして、主要サプライヤーと協働しています。



さらに、中期経営計画「日産パワー88」の目標達成に向けて、2013年度より従来の活動に加え、仕様、原材料、為替、物流などすべてのコスト変動を最適化する「TdC (Total delivered Cost) チャレンジ」を導入してきました。2017年度も引き続き、日産の各機能部署とサプライヤーが一体となって「TdCチャレンジ」および品質・供給両面での改善活動を強力に推進していきます。

▶ [website](#)
▶ 「日産パワー88」に関する詳細はウェブサイトをご覧ください

サプライヤーとのコミュニケーション

日産は、サプライヤーへのタイムリーで確かな情報提供が重要であると考え、サプライヤーズミーティングを日本および各海外拠点で開催し、中期経営計画や年度ごとの購買方針などについて周知を図っています。

日本の例では、月次で連絡会を開催し、生産計画やさまざまな業務、依頼事項について直接サプライヤーに伝えるとともに、サプライヤーからの質問事項や要望に応える場としても活用しています。

事業発展に貢献したサプライヤーをグローバルに表彰

日産は、毎年世界の各拠点で事業の発展に貢献したサプライヤーを表彰するとともに、グローバルレベルで業績向上に寄与したサプライヤーに対して、「日産グローバルサプライヤーアワード」として、「グローバル品質賞」と「グローバルイノベーション賞」を贈呈しています。この表彰制度は、品質、コスト低減、技術開発といった経済活動、環境配慮、社会性の3つの側面でバランスのとれた経営を行うという日産の考え方が、グローバルレベルでサプライチェーン全体に浸透することを目的としています。

グローバル品質賞は、購買や品質などの関連部門が、グローバルに統一された品質評価基準に基づいて選考します。

グローバルイノベーション賞は、商品技術とプロセスマネジメントの2分野において、生産・開発・品質など関連部門の推薦を受けたサプライヤーを選考します。

2016年度は、6社がグローバル品質賞を受賞し、グローバルイノベーション賞は商品技術分野で6社が受賞しました。

目次・使い方	はじめに	CEOメッセージ	日産のCSR戦略	日産のCSRマネジメント	ルノーと日産のアライアンス	CSRデータ集	第三者保証
環境	安全	社会貢献	品質	バリューチェーン	従業員	経済的貢献	コーポレートガバナンス・内部統制

紛争鉱物への方針と取り組み

2012年8月、コンゴ共和国および周辺国の紛争地域で採掘された4鉱物の中で、武装勢力の資金源となっている可能性のある鉱物の使用有無について報告を課す法案(細則)が米国で制定されました。この趣旨に賛同する日産は、サプライチェーンにおけるCSRの普及浸透を目的として、サプライチェーンでの紛争鉱物の使用を把握し、紛争鉱物不使用に向けた取り組みを行う方針[▶]を決定し、ウェブサイトなどで公表。2013年度から調査を開始しています。

グローバルに広がるサプライチェーンにおける使用状況をすべて把握する必要があるため、調査は大規模なものとなっており、日本自動車工業会、日本部品工業会および電子情報技術産業協会などと連携し、定期的なワーキング活動を実施しながら調査方法の検討や調査結果の解析を進めています。

販売会社との取り組み

日産では、販売会社とコンプライアンスの意識を共有し、より強固な内部統制を構築できるように、さまざまな取り組みを推進しています。販売会社とのコミュニケーションを強化しながら、CSRマネジメントのさらなる向上を目指しています。

販売会社と共同で取り組むCSRマネジメント

日産では、販売会社とともに一貫性のあるCSRマネジメントを推進するため、日本国内の日産販売会社向けにコンプライアンス強化を目的とした活動を実施しています。具体的には、コンプライアンスに関する管理レベルの把握と改善を目的とした「自己点検プログラム」を各販売会社で年2回継続的に実施。日産が提供する「自己診断チェックシート」をもと

に、自社におけるコンプライアンスの現状や課題について把握し、PDCA (Plan-Do-Check-Act)サイクルを回しながら自発的改善活動につなげています。チェックシートは監査での指摘事項等を反映させながら毎年更新し、修正・追加された項目についても周知・徹底を図りながら改善活動を実施しています。プログラムの実施状況は販売会社および日産の関係部署でも共有、取締役会への報告も実施し改善状況や有効性を確認するなど、販売会社と一体となってCSRマネジメントのさらなる向上を目指しています。

重大なコンプライアンス案件が発生した際には、法務、広報、渉外など日産の関係各部署が連携しながら販売会社とともにタイムリーかつ適切に対応しています。

販売会社におけるコンプライアンス教育

日産では販売会社におけるコンプライアンス教育として下記を実施しています。

「行動規範」の定期的改定と周知・徹底

日産では、3年に1回、法改正への対応や、企業倫理に対する社会からの要請に応えるため、「日産行動規範(日本版)」[▶]の改定を実施しています。販売会社においても定期的に「行動規範」の改定を行うとともに、改定に合わせて従業員への教育を実施し、周知・徹底を図っています。

情報セキュリティ強化およびハラスメント未然防止

ウイルス感染やメール誤送信防止、PC紛失・盗難による情報流出防止など、日常業務の中で重大インシデントに結びつくようなリスクを回避するために、日産の情報セキュリティ教育の内容に準じた教材を各販売会社に提供し、教育を実施しています。

▶ website

▶ 紛争鉱物(コンフリクト・ミネラル)への取り組みに関する詳細はウェブサイトをご覧ください

▶ page_114

▶ 「日産グローバル行動規範」を掲載しています

目次・使い方	はじめに	CEOメッセージ	日産のCSR戦略	日産のCSRマネジメント	ルノーと日産のアライアンス	CSRデータ集	第三者保証
環境	安全	社会貢献	品質	バリューチェーン	従業員	経済的貢献	コーポレートガバナンス・内部統制

SNSやブログに関しては、不適切な書き込み事例を販売会社と共有し、販売会社が社内に周知することで未然防止を図っています。不適切な書き込みにより、当該販売会社のみならず、日産グループ全体にどのような不利益が発生する可能性があるのかも伝え、啓発と再発防止を図っています。

ハラスメントに関しても、社会的関心の高まりや販売会社での発生事例を勘案し、パワー・ハラスメントを中心とした教材を提供。「パワー・ハラスメントにあたる行動・言動事例」「発生した際の影響」「販売会社での発生事例」「発生時の対応」などの内容を含み、これを活用した教育を2012年度から実施しています。2016年度も昨今の発生状況を踏まえ、「パワー・ハラスメントにあたる行動・言動事例」を中心に教材の一部を更新しました。

また2016年度は適切な勤務管理の実現に向けて、販売会社の勤務管理実態調査を行うとともに、勤務管理について不十分な点が認められた販売会社に対しては、是正指導を実施することにより適切な勤務管理の実施を推進しています。